



安齋正弘

福島県生まれ。木耐協設立当初から技術顧問として組合員の指導や技術開発を行う。2007年国土交通大臣表彰。趣味は社交ダンス

◎今号のテーマ

一般診断法
補強方法
についての考察

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の質問・回答集の確認

アメリカ大統領選は、大方の予想を覆す結果となりましたね。先にはイギリスのEU離脱国民投票でも同様な結末となり、いまだに揺れています。調査や経験則から予想することが如何に困難なことなのかを思い知らされるような、或いは人々の「選択」の行動心理が変化してきているのかも知れない、とさえ思え

てしまふ。これからは益々フアジーな時代になるのかな?

さて、今月もこの回答集をめくり、内容・趣旨を確認し日々の実務に活かして参りましょう。日本建築防災協会に掲載されている文章は、下記ホームページアドレスから直接ご覧ください。

〈注〉紙面の都合上HPに掲載されている文章から、趣旨を外さない程度に表現を変えています。〉

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/kodate/wquest.html>

Q7.6

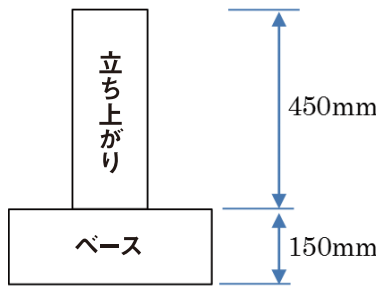
(指針編P133) 基礎補強の例示がありますが、立ち上がりの高さが高い・低い判断の寸法はどの程度でしょうか?

A 基礎立ち上がりの高さ450mm程度が参考となります。

考察

布基礎が主流だった従前は、ベースの厚さ:150mm、立ち上がりの高さ:450mmが基本的な寸法で長い間踏襲されてきていると言えましょう。この450mmは尺貫法時代の1尺5寸に相当し、基礎の立ち上がり用いる「せき板」、つまり型枠にちょうど1尺5寸のものが使われていました。その名残がアンサーの「450mm程度」と思われます。しかし、小生が「認定講習会」で触れて

参りましたように、あくまで「地盤(性能)と相談」で考えて欲しいと思います。



基礎補強後の基礎評価について、「基礎Ⅲ ひび割れのある無筋コンクリート造」で、エポキシ樹脂でひび割れ補修した場合は、地盤に関係なく、ひび割れ幅に変動がなければ、基礎Ⅱとみなすことはできますか?

Q7.7

ひび割れの原因が乾燥収縮によると判断できるのであれば結構ですが、無筋コンクリートをエポキシ樹脂の注入のみで補修する場合、構造的な要因のひび割れの場合にはエポキシ樹脂を注入した近傍のコンクリートに同じひび割れが入ります。

従って、通常はエポキシ樹脂のみの補修では基礎Ⅱとは見なせません。

考察

まさに回答の通りで、構造的な要因(基礎に何らかの力が作用)がある場合は、その原因を取り除かない限りは、エポキシ樹脂を注入した近傍に新たな

ひび割れが発生します。(補修部は元のコンクリートより強度が大きいので、その近傍に再発します)。

